

学校法人 兵庫医科大学

広報

 兵庫医科大学  兵庫医療大学

vol. **218**
2012年10月号

兵庫医科大学 開学 40 周年

開学 40 周年記念学長対談

4 学部合同で学ぶチーム医療

オープンキャンパス報告

ベストティーチャー賞

津波避難訓練、薬学部 1 日体験入学

トリアージ・防災訓練

エイチ・アイからの医療機器寄贈

01 【特集】兵庫医科大学・兵庫医療大学
開学40周年記念 学長対談

05 最近の主な出来事

■兵庫医科大学

- 07 4学部合同で学ぶ チーム医療
09 平成24年度兵庫医科大学オープンキャンパスを開催
10 クロアチア共和国リエカ大学医学部交換留学
11 麻酔科学 廣瀬 宗孝主任教授 就任挨拶
兵庫医科大学後援会支援による平成記念会館アリーナ内
空調設備設置並びに東鳴尾テニスコート修繕工事完了
12 平成23年度学生が選ぶベストティーチャー賞授与
産科婦人科学 小森 慎二主任教授 大学葬
13 平成23・24年度課外活動結果報告
14 西日本医科学学生総合体育大会を終えて
「7大学連携先端がん教育基盤創造プラン」調印式
財団法人各種団体による研究助成金等の交付状況

■兵庫医療大学

- 15 第5回兵庫医療大学 オープンキャンパスを開催
16 薬学部1日体験入学
17 早期臨床体験実習
兵庫医療大学 第6回保護者懇談会を開催
18 地震津波防災訓練を実施
多彩人(薬学部 森山 雅弘教授)

■兵庫医科大学病院

- 19 第2回兵庫医大フロンティア医療セミナー
平成24年度 兵庫医科大学病院 知事表彰
ダ・ヴィンチの導入
20 第12回地域医療懇談会
平成24年度看護学生インターンシップ
21 平成24年度防災訓練を実施しました
岩手県立高田病院での活動報告
22 小児患者さん対象イベントを開催
クリーンハンドキャンペーン

■ささやま医療センター
ささやま老人保健施設

- 23 中学生夏休み病院体験セミナーを開催
第13回ささやま老人保健施設納涼会を開催
24 ささやま老人保健施設敬老会を開催
篠山キャンパス組織改組について

■学校法人兵庫医科大学

- 25 報道機関等への出演・掲載情報
27 株式会社エイチ・アイからの寄贈
「人材対策室」、「内部監査室」の移転について
28 兵庫医科大学開学40周年記念事業募金状況報告
29 教員の国、独立行政法人の審議会等の委員就任状況
文部科学省より「教育・文化週間」のお知らせ
30 第11回私立医科大学事務職員海外研修に参加して
規程等の制定・改正・廃止
開学40周年記念式典等への出席者について
31 最近の新聞記事より(神戸新聞)
34 11月、12月の行事予定
ご意見お問合せ

特集
1

開学40周年記念・学長対談

兵庫医科大学・兵庫医療大学

本年度で40周年を迎える兵庫医療大
長と、兵庫医療大学
しいいただきました。

えた兵庫医科大学と、開学より6年目となり本年度で完成年
学。両大学の大きな節目に際し、兵庫医科大学 中西憲司学
松田暉学長に、これまでの想いや両大学の連携についてお話

兵庫医科大学の開学40周年を迎えて

中西: 開学40周年というと、もう成熟した大学です。どういう教育をするか、どういう人を育てるか、どういう研究をするかということが試されていると思っています。40周年をひとつのターニングポイントとして捉え、更なる飛躍を目指し、戦略的に色々なことをやっていきたいと考えています。

松田: 開学40周年というのは本当に大きなことだと思います。兵庫医科大学(以下:医科大)には馴染みの先生が沢山おられ、私自身も大変お世話になり、非常に親しみを感じております。医師で40年といえかなり成熟した感が出てくるころですが、大学としては、次の10年、50周年を目指しさらに飛躍されんことを切に願っています。

中西: ありがとうございます。この40年、大学として厳しいときもありましたが、右肩上がりに成長してきました。医科大は非常に自由な校風が大きな魅力だと思っています。大学が生き残っていくために、難関に遭遇するたびに、教職員それぞれが良い選択をしてきたことが、40年の繁栄に繋がっているのではないかと思います。また、新設医科大学の場合は国家試験対策に時間をとられて研究がしにくいということもありますが、本学の場合は非常に挑戦的に両立してきたということが特徴であり強みだと思っています。

松田: 中西学長が仰ったように研究面の国際的な業績も非常に高く、これまで頑張ってきた先生方が教育・研究・診療において最大限の努力をされたことに対し、敬意を表する次第です。素晴らしいことですね。

中西: 私もいい先輩がおられたことを非常に感謝しております。松田学長が医科大に親しみを感じると仰ったのも、先輩たちが自由な校風を作ってくれたことによるものだと感じます。

松田: 歴代の学長や病院長も、本当に尊敬する方々ばかりで、この40年という歴史・重みは素晴らしく、大きな財産であると思います。中西学長がリーダーシップを発揮されて、今後、医科大が更なる飛躍を遂げるにあたり、兵庫医療大学(以下:医療大)はどうサポートできるかということが問われていると思います。

兵庫医療大学の完成年度を迎えて

中西: 医療大も完成年度を迎え、まずひとつのゴールではないかと思いますが、それを達成できたことに敬意を表したいと思います。

松田: 私自身も試行錯誤で進めてきましたが、温かく見ていただきありがとうございます。やっとここまでできたかなと思います。非常に感慨深いですね。

教職員や学生の皆さんも全てが新しい中で本当によく頑張ってくれました。また、ここまで来られたのは教育に実習に、医科大の万全のサポートがあってこそであり、本当に感謝しています。看護学部とリハビリテーション学部はもう2期生までが卒業して、兵庫医科大学病院でも随分お世話になっています。挨拶などの普段の心がけを含め、新しい大学ですが学生が良い校風を作り、卒業生も皆さんに良い評判をいただいていると思います。薬学部1期生の卒業まで残り半年、胸を張って最高の大学が完成しましたと言えるように、頑張りたいと思います。

チーム医療・ボーダレス教育の推進

松田: 医療大は開学から、キーワードとして「チーム医療」と「ボーダレス教育」を掲げてきました。「チーム医療」といえば医療大ですねと言われます。「チーム医療」の重要性を学生や教職員が理解し、医科大や病院の皆さんにも支えていただきました。特に医科大との4学部合同チュートリアルは本当に我々が誇るべきカリキュラムだと思います。この「チーム医療」、「ボーダレス教育」というキーワードをさらにどう発展させていくのか、ここからが正念場だと思います。

中西: 医療大の誕生の歴史を振り返ると、医科大からたくさんの優秀な人材が医療大に行って、自分たちにとって同じ大学という意識で創りあげていったと思うんですね。その想いが先生方から伝わって、学生たちもとても自然に医科

大と医療大を非常に近い距離に感じてくれていると思います。『チーム医療』、『ボーダレス教育』の重要性を常々教えてこられて、そして合同チュートリアルなどはひとつの伝統となってきた。そういう意味で、大学名は違いますがルーツは同じで、緊密な関係が取れているのではないかと思います。

兵庫医科大学と兵庫医療大学の連携

松田: 学校法人兵庫医科大学の医療大なのですが、対外的に認識してもらうには少し時間がかかりました。医科大と兄弟大学なんだというところを、さらにアピールしていく広報戦略が大事なところかと思っています。

中西: 40周年を迎えて建物が老朽化してきていることもあり、新教育研究棟のグランドデザインを作っています。たとえば医療大の学生が来たときに不便がないようにロッカー室を作ろうという案が出てるんですよ。自然にそういうことを考えるようになっていきますから、医療大と本当に一緒に勉強するんだという意識がありますね。

松田: 私がとても嬉しかったのが、医療大育成センターを設置していただいたということです。医科大の医学教育センターが先駆的に努力されているのを見て、我々も共通教育センターの先生が頑張っておられますが、それを統合した医療大育成センターができたので、医科大との連携をより強くしていけると期待しています。

医科大から医療大に専任で来ていただいた臨床の先生も、医学部とは違う領域ですが、両大学の懸け橋として頑張っていると思います。研究面や臨床活動において教員側もこれからどう融合・連携していけるか楽しみです。

中西: 本学の教授の素晴らしいところは、他の大学から来られた先生も、本学の強みである研究と教育の両立を考えているんですね。本来両立しにくいところを達成された先生が医療大に行かれて、またそこで花を咲かせておられる



というのが、本学の特徴になってきているんじゃないかと思っています。

人材交流について

松田：これから両大学が総合的な医療系大学としてより一体的に発展するには、さらに医科大の医師、看護師、PT、OTの方々にも沢山医療大に来ていただいて、一緒に取り組みたいと思います。我々の教員で、国家資格を持っている方が、臨床面でどう自分のキャリアを続けていくかというのが問われていると思います。医療大の教員も、兵庫医科大学病院やささやま医療センターで、ある程度臨床活動を継続していけるシステムがあればいいと思います。

中西：両大学を頻繁に行き来して、キャリアアップしていくというのはお互いのメリットになりますね。

松田：そうですね。看護学部教員からは教育で手一杯で臨床の活動をするのは無理だということも聞きますが、病院の感染制御のチームに入っている教員もいますし、そういう教員を増やしていくための突破口が要ると思います。リハビリテーションの領域も、医科大のリハビリテーション医学研究室や病院リハビリテーション部との連携を強めていって欲しいと思います。あとは医科大の医師がもう少し行き来できるように、同じ法人の中で有効な仕組みができればいいですね。

中西：医療大で教えている先生が、本学の病院で臨床に戻ってさらに経験を積み、そしてまた医療大に戻って教鞭をとる。それができれば本当に大学の垣根がなくなってくると思います。医科大とささやま医療センターで人事交流を行っているように、医療大とも、人事交流ができれば本当に一体感が出てくると思います。

松田：学生は合同チュートリアルで交流していますが、教員の人事交流も大切です。

中西：それがあ意味では研究の活性化にもなりますしね。

松田：そうですね。特に薬学部は研究面ではだいたい医学部にも近いですし、もっと交流できるといいと思います。薬学部の大学院開設をきっかけに、医学部と薬学部合同でセミナーを開催するとか、教員同士、学部同士が連携を深められたらいいですね。何か良い仕組みを作っていければと思います。

学術交流について

中西：研究と教育が両立できる人が両大学にいるわけですから、ときどきシャッフルして連携できると非常にいいと思います。セミナーの共催や、医科大の大学院では学術賞という表彰も行っているの、医療大でもそういう仕組みを作って、良い成果を公表するのも刺激になるかなと思います。

松田：医療大はまだこれからですが、医科大のやり方を導入してよい刺激を与えられればと思います。定期的な意見交換や合同学術セミナーの開催を交互にやるなど、学術的な交流もできればいいと思います。リハビリテーションに関しては、すでに医科大と篠山キャンパスと医療大の持ち回りで合同セミナーを行っているの、お互いの刺激になっているのではないかと思います。

中西：医科大では年1回「知の創造レクチャー」という特別講義を行っていて、ぜひ医療大の学生さんにも参加してもらいたいと思います。日本のトップの研究者が非常に高いレベルの内容を、平易な表現で説明していただけるんですね。昨年「知の創造レクチャー」で講演していただいた先生は、学生に語りかけるようにお話しされて、学生もとても印象に残っていると言っています。ぜひ医療大の学生さんにも聞いていただきたいですね。

松田：そういうところで連携することも良いですね。先日医療大で開催された学術講演会に医科大の学生が来ていて、鋭い意見を出して皆が驚いていました。色々な講演会を学生に積極的に案内することも大事ですね。

中西：今、医療大と医科大にそれぞれホームページがありますが、できれば共通カレンダーみたいなものを作って、お互いの行事等を見られるようにするというのもいいかもしれないですね。

松田：皆さんやはり講義がとてもお上手ですね。私も全学の講義を行ってきましたが、講義の技術もトレーニングしないとイケないですね。ここが面白いと言っても、目を輝かせて聞いている学生とそうでない学生と様々ですし、グループ学習などを盛り込んで、いかに学生に医療が面白いとインプットできるか。1年生の授業に医学部から先生に来てもらって色んな話をしてもらうなどの工夫も必要ですね。



授業での連携

中西：座学もちろん大切ですが、合同チュートリアルに近い形で双方向的な教育をどんどんやっていきたいですね。

松田：患者さんや手術のこと、病気のことなど、もっとビジュアルで見せる工夫が要ります。教科書だけで学ぶだけではなかなか分からないですね。医学部のCTや術中写真などをライブラリー化して、医療大の学生にも見られるようにできれば、意識も変わると思います。私も医科大の講義に来ていますが、カリキュラムにとらわれず、ある程度自由度のある講義を作っていきたいですね。また、もっと特別講義なども考えていきたいです。

中西：共同でそういう教育のソフトを作るというのもいいですね。

松田：それはいいですね。教育の方法を、医療人育成センターを基軸に両大学が連携して検討したらいいと思います。また、授業を一度お互いに見るというのもいいかもしれないですね。外から評価をしてもらって、お互いこの部分はサポートできるとか、そういう意見が次に繋がるのではと思います。

中西：お互いに授業を見てヒントが見つかったり、目からうろこが落ちるようなことがあるかもしれませんね。

松田：医療大では最近教務部の中に教育支援室を作りましたが、ここは学内だけでなく医科大との連携を強化することも目的の一つとなっているので、これをうまく活用できればと思います。

今後に向けて

松田：おかげさまで我々も完成年度を迎え、医科大も40周年という大きな節目で、今後どう展開していくかというところが問われていると思います。現在、中期事業計画を立てていますが、やはり今まで以上に医科大との連携を強化して、他大学との違いをアピールしていきたいですね。チュートリアル教育をもっと増やすとか、教員の交流など、より連携を強化することでお互いの発展のためになればいいと思っています。特にわれわれは次の5年10年が重要だと思っていますので、よろしくお願いします。

中西：両大学が協力して、モデル総合医療大学というのがきたらいいですね。こちらこそ今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。



8月 August

3	■兵庫医科大学	オープンキャンパス	→P9
6～11	■兵庫医療大学	早期臨床体験実習（ECE）	→P17
8・23	■ささやま医療センター	篠山市内中学生 病院体験セミナー	→P23
9	■兵庫医療大学	リハビリテーション学部対象社会人スキル対策講座	→P5
10	■兵庫医療大学	保健師ガイダンス	
13・14	■兵庫医科大学病院	平成24年度 看護学生インターンシップ	→P20
15	■兵庫医科大学病院	市民健康講座 「単なる“物忘れ”と“認知症”は違います！」 「安全に楽しく食事をするために～介助のポイント～」	
18・19	■兵庫医療大学	オープンキャンパス	→P15
24	■学校法人兵庫医科大学	共済会主催行事 ビールパーティー	
25	■ささやま医療センター	ささやま老人保健施設 納涼祭	→P23
27	■兵庫医科大学 ■兵庫医科大学病院	クロアチア共和国 リエカ大学 医学部交換留学 小児入院患者対象イベント	→P10 →P22
30	■兵庫医科大学	オープンキャンパス	→P9

9月 September

1	■兵庫医科大学 ■兵庫医科大学病院	産科婦人科学 小森 慎二 主任教授 大学葬 第12回地域医療懇談会	→P12 →P20
1・2	■兵庫医療大学	オープンキャンパス	→P15
5	■兵庫医科大学病院 ■ささやま医療センター	市民健康講座「血糖が高いと何故、体に悪いのか？」 ささやま老人保健施設 敬老会	 →P24
6	■兵庫医科大学 ■兵庫医療大学	平成23年度 学生が選ぶベストティーチャー 授与式 学術講演会 「『死にざま』こそ人生 -「ありがとう」と言って逝くための10のヒント-」	→P12 →P6
8	■兵庫医療大学	第3回 学校法人兵庫医科大学 リハビリテーション関連施設合同セミナー	→P6
10～14	■兵庫医科大学 ■兵庫医療大学	チーム医療演習（チュートリアル）	→P7
14	■兵庫医科大学	大学院前期入学試験	
14・15	■兵庫医科大学病院	臨床研修指導医養成講習会 （スペースアルファ神戸）	
19	■兵庫医科大学 ■兵庫医科大学病院	クロアチア共和国 リエカ大学 医学部交換留学 フェアウェルパーティー 市民健康講座「大腸癌最新の診断・治療法 - 大腸癌死亡ゼロは可能か -」	→P10 →P5
20	■兵庫医療大学	看護学部対象 社会人スキルガイダンス	→P5
20・21	■兵庫医科大学 ■兵庫医療大学	4学部第1学年次合同チュートリアル	→P7
22	■兵庫医療大学	第6回保護者懇談会	→P17
24	■兵庫医科大学病院	第2回兵庫医大フロンティア医療セミナー	→P19
26	■兵庫医療大学	地震津波防災訓練	→P18
28	■兵庫医科大学 ■兵庫医科大学病院	トリアージ・防災訓練	→P21
29	■兵庫医療大学	大学院入学試験（看護学研究科・医学科学研究科）	
29・30	■兵庫医科大学病院	緩和ケア研修会（医師対象）	
30	■ささやま医療センター	環境整備（除草作業等）	



8/9 ■兵庫医療大学
平成24年度 リハビリテーション学部4年生対象
「社会人スキル対策講座」を開催

M棟106講義室において、リハビリテーション学部4年生を対象とした「社会人スキル対策講座」が開催されました。就職活動をする上で必須となる「マナー・履歴書の書き方・面接での注意点」について株式会社マイナビの講師の方を招致し講義して頂きました。

面接講義では模擬面接やロールプレイなど実践形式での講座となり、スキル習得だけでなく、いよいよ本格化する就職活動に対する意識を高めることが出来ました。



9/20 ■兵庫医療大学
平成24年度 看護学部3年生対象
「社会人スキルガイダンス」を開催

M棟204講義室において、看護学部3年生を対象とした「社会人スキルガイダンス」が開催されました。

社会人教育の一環として、これから臨地実習に臨む学生たちに対して患者、指導者、病院・施設関係者の方に「親近感を持ってもらえる」マナーの基礎を身につけるべく、研修・講演ネットワークWILLの講師の方を招致し講義して頂きました。

実習に向けての接遇マナーについての理解やモチベーションを高める良い機会となりました。



9/6 ■兵庫医療大学
学術講演会

学校法人金城学院 学院長の柏木哲夫先生をお迎えし、平成24年度兵庫医療大学学術講演会『「死にざま」こそ人生-「ありがとう」と言って逝くための10のヒント-』が開催され、一般の方や本学教職員・学生約240名が参加しました。

柏木先生は日本ではじめてのホスピスプログラムをスタートさせ、ホスピスという場で多くの患者さんを看取られた経験から、死に対する考え方や、死とどう向き合うかなど、ユーモアを交えお話いただき、会場にいられた方々は熱心に耳を傾けていました。



9/8 ■兵庫医療大学
第3回 学校法人兵庫医科大学
リハビリテーション関連施設合同セミナー

オクトホールにて「第3回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」が開催されました。特別講演には慶応義塾大学の木村彰男教授をお招きし「臨床神経生理学とリハビリテーション」についてご講演いただきました。その他にも一般演題として西宮、神戸、篠山のリハビリスタッフが日ごろの研究成果を発表しました。当日は関連施設の方やリハビリテーション学部の学生も参加し、200名を超す参加者がありました。

TOPICS

かいきょうさい
兵庫医療大学 大学祭『海 泉 祭』を開催しました
平成24年10月6日(土)・7日(日)
今年度のテーマは「幸(こう)ふくろう」、
スローガンは“Happiness for you”

今年で第5回目を迎えた海泉祭。来ていただいた方々に“幸せ”を届け、「海泉祭に来てよかった」と思ってもらえるような学祭にしたいという願いを込めて、学生たちは様々なイベントの企画や準備に取り組みしました。



詳細は、次号の広報219号で掲載します。

いせいさい
兵庫医科大学 大学祭『醫聖祭』を開催します！
【日時】平成24年11月17日(土) 12:00～16:30
平成24年11月18日(日) 9:30～18:00

11月17日・18日の2日間にわたって、兵庫医科大学大学祭『醫聖祭』を開催します。ステージイベント、各種展示、医学講演会、模擬店、芸人ライブなど盛りだくさんの内容です。ぜひお越しください。



昨年の様子

4学部合同で学ぶ

チーム医療

患者さんとその家族を中心に、各医療専門職者が相互に連携・協力しながら、最善の治療・ケアを行う「チーム医療」という考えは、高度化・複雑化が進む現代の医療現場で、ますます求められています。兵庫医科大学医学部、兵庫医療大学薬学部、看護学部、リハビリテーション学部が4学部合同でグループ学習を行い、学生のうちから「チーム医療」を実践的に学ぶ機会を設けています。



4学部1年生合同チュートリアル

終末期医療、延命医療をどのように考えるか

平成24年9月20日・21日に兵庫医療大学にて1年生対象のチーム医療演習が行われました。兵庫医科大学、兵庫医療大学の1年生約480名が60グループに分かれ、超高齢社会を迎えた日本が抱える課題、終末期医療・延命医療について互いに想いをめぐらせました。



討論のテーマが末廣教授より提示され、家庭での看取りで家族が直面する苦悩について映像を共観しました。各グループは4学部混合の8名前後で構成されており、はじめて顔を合わせる仲間になんか緊張している様子が見えたり聞かれます。



各グループに分かれ、チューターの見守る中グループ討議を行います。1年生とはいえ、それぞれの専門分野の立場から、互いに意見を述べ合い、問題解決に向け多角的に討議が行われていました。



各グループで行った討議の内容をまとめます。この頃になると互いに打ち解けた様子で、積極的なコミュニケーションが行われていました。各グループとも楽しみながらも真剣に取り組んでいます。



いよいよ発表です。発表内容はグループによって様々で、1つのテーマに対して、形にとられない柔軟な討議が行われたことがうかがえます。学生間の活発な質疑応答に加え、兵庫医療大学松田学長からも質問が行われました。

医学部3年生・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部4年生

チームで治療方針決定を図る

平成24年9月10日から14日の5日間に渡り、兵庫医科大学にて医学部3年生と薬学部・看護学部・リハビリテーション学部4年生合同のチーム医療演習が行われました。

学部混成のグループに分かれ、与えられた症例に沿って治療方針を決めていくという演習で、これまで学んできたことを発揮し、実践に即した討論が行われました。

また特別講演を開催し、いま求められている「チーム医療」の在り方を2名の先生よりご講演いただきました。

特別講演①



滋慶医療科学
大学院大学
田村 由美 教授
「(これからの)チーム医療 ―インター
プロフェッショナル・ワーク」

特別講演②



兵庫医療大学
馬場 明道 副学長
「チーム医療における
薬物療法」

ガイダンス



はじめに、現在の医療者に求められる社会的、心理的、倫理的な面にも配慮した全人的医療や、学生のころからチーム医療の素養を養う重要性について説明が行われました。

グループ討議



与えられた症例に基づいてグループ討議を行いました。診断から治療方針の決定まで、各医療職種の観点から意見を出し合い、患者さんやご家族のサポートを考えていきます。

グループ発表



7～8グループずつ、4教室に分かれて発表が行われました。あらゆる可能性を考え抜いた発表に質疑応答がされ、自身のグループだけでなく、他グループの考え方や治療方針についても積極的な意見交換が行われました。

症例講義



今回の症例について、現場の医療者はどのように考えるか医師、薬剤師、看護師、作業療法士、理学療法士の見地から講義が行われました。学生は自分たちが考えた診断と、実際の治療方針を比較します。

全体討論



パネルディスカッション形式で活発な質疑応答が行われました。特別講義やこの5日間のチュートリアル演習で、実践的な考え方や積極的な発言、コミュニケーションを身につけたようです。

優秀賞表彰



今回のチュートリアル演習に関する試験で最高得点を取った看護学部の学生1名と、60グループの中から優秀賞として2グループが選ばれ表彰が行われました。

総評



最後に、鈴木医学教育センター長より、各医療職者がそれぞれの専門性を発揮したうえで、互いに協力して患者さんやその家族をサポートすることの重要性について総評が述べられました。

兵庫医科大学と兵庫医療大学との連携教育について



兵庫医科大学
1年「早期臨床体験実習Ⅰ」、
3年「チーム医療演習」科目責任者
鈴木 敬一郎 主任教授

チーム医療演習：症例でチーム医療のダイナミクスを体験する

「チーム医療演習」も今年で3年目です。新たな試みとして、熱心に課題に取り組み発表も充実していた2つのグループと試験(全学部同一問題)で最高点の方(今回は看護学部生)を表彰し粗品を進呈しました。

医療は長い時間軸で考える必要があります。予防や先制医療に始まり、急性期医療、慢性期医療、リハビリテーション、在宅治療や介護、療養、そして看取りまで全てが医療なのです。以前の医療の目標は急性期中心で病気の治療や延命が主体でしたが、現代はそれに加えてこの長い時間軸の中で生活の質(QOL)の向上も重視されています。そのためには多職種の連携が必須です。急性期では医師が中心であっても、他の部分では他職種の働きの方がむしろ大きいと思います。この経験をきっかけにして将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について考え、そして現場での再会を期待してまた勉学に励んでください。



兵庫医療大学
1年「医療科学概論」、
4年「チーム医療演習」科目責任者
末廣 謙 教授

4学部1年生合同チュートリアル：いま注目の「延命治療のあり方」を考える機会に

4学部1年生による合同チュートリアルは今年で4回目となりますが、これまでのように全学生が同時に参加するのではなく、3・4年の合同チュートリアルのように全体をA班とB班に分け、それぞれ学部混成で7～8名の30グループを構成して実施しました。A・B共通で「終末期医療、延命治療をどのように考えるか」というテーマを設定しましたが、AとBにはそれぞれ異なる映像やシナリオを提示し、学生たちが今持っている知識をもとに討議し一定の結論を出すというものです。具体的内容は胃ろう造設や人工呼吸器の使用などが、単なる延命治療になっているのではないか、これを中止することの可否など、いま社会的に注目されている問題点を考える機会にすることを目的としたものでした。これらの重要性を十分理解し討議したグループは、発表会でも内容の深い発表ができていたと思います。